

個人投資家の皆さまへ
カナデビア株式会社 会社説明会
(証券コード：7004)

2026年1月27日

会社概要

創業

1881年

英国人実業家 E.H. ハンターにより、
造船事業としてスタート

代表者

桑原 道

取締役 社長兼CEO

総資産(2025.3.31)

6,096億円

連結売上高(2025年3月期)

6,105億円

連結従業員数(2025.3.31)

12,964名

単体 3,964名

関係会社数(2025.3.31)

193社(海外108社)

連結子会社158社・持分法適用会社35社

説明会のポイント

2024年10月
日立造船株式会社から、**カナデビア株式会社**へ

注力している事業領域は**脱炭素、資源循環**

ごみ焼却発電施設納入実績 **世界No.1**

社名変更

Kanadevia

カナデビア株式会社
(英文表記: Kanadevia Corporation)

Kanaderu

(奏でる)

+

Via

(道・方法)

“技術の力で、人類と自然の調和に挑む”

2024年10月1日に日立造船株式会社から商号変更

事業転換の歩み

- 1881年 英国人 E.H.ハンターが大阪鉄工所を創業
- 1936年 日立製作所（現在の日立グループ）の傘下に
- 1947年 日立グループから独立
- 1960年代 環境事業を開始
- 2002年 造船事業を分離
- 2010年 Inovaを買収

2024
デンマークのBabcock & Wilcox
Renewable Serviceを子会社化

2021
シールドマシン事業を
川崎重工業(株)と統合

2022
ドイツのSteinmüller
を子会社化

2017
長期ビジョン「Hitz 2030 Vision」スタート
豪州のOsmofloを子会社化

2024年10月 カナデビア株式会社へ商号変更



1960
スイスのVon Roll
(現Inova)
と技術提携

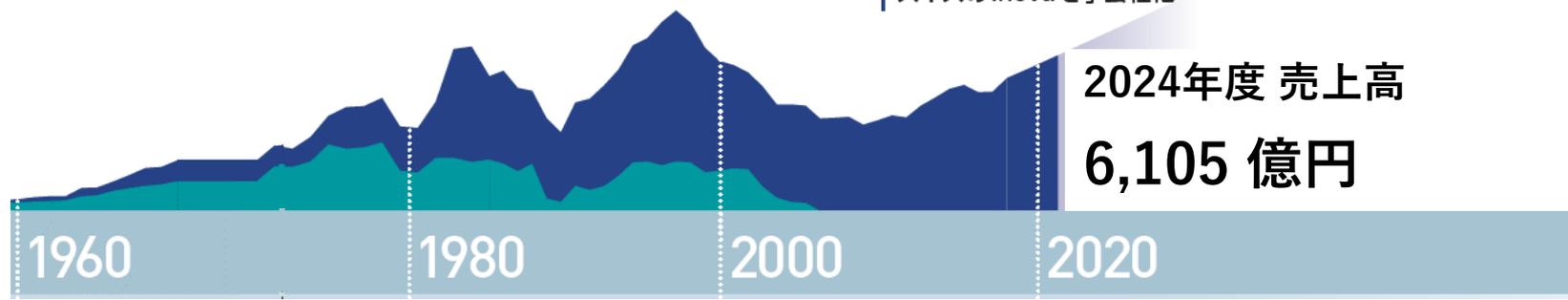
1977
造船事業の
ピーク
3,585億円

2002
造船事業
の分離
3,952億円

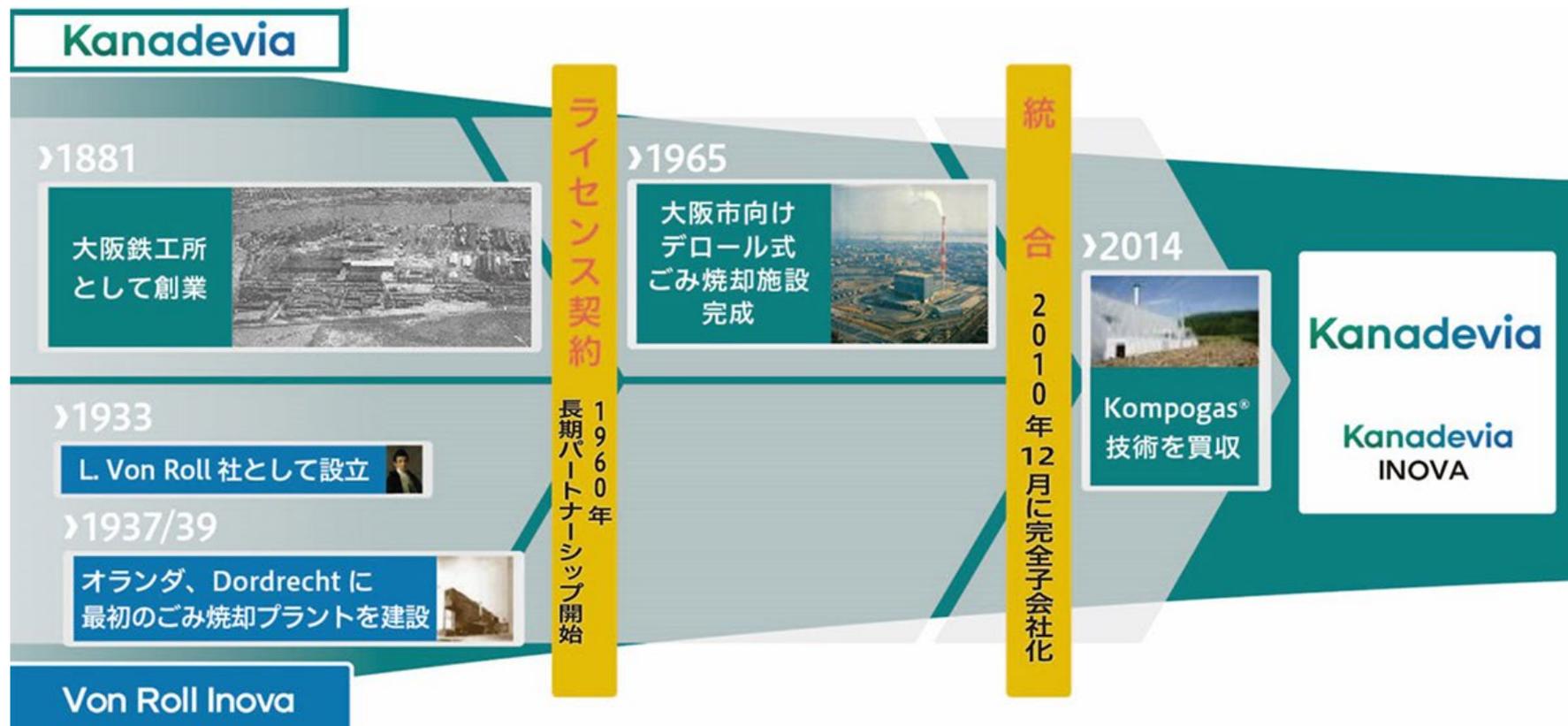
2013
米国のNACを子会社化

現在

2010
スイスのInovaを子会社化



カナデビアグループとInova(旧Von Roll Inova社)との連携



大規模ごみ焼却発電プラントのEPC*1から完工後のO&M*2を
包括的に請け負えるリーディングカンパニーへと成長

*1 EPC: Engineering(設計)・Procurement(調達)・Construction(建設)

*2 O&M: Operation(長期運営) & Maintenance(保守サービス)

カナデビアの現在

～グローバルNo.1 廃棄物処理ソリューションプロバイダー～

(2025年3月現在)

ごみ処理プラント納入実績

世界 **No.1**

世界 **44** カ国・地域に展開

国内 **543** 施設

海外 **977** 施設

(ライセンサーによるものを含む)

1965年に国内初の大型ごみ焼却発電施設を納入して以来、ごみ焼却発電施設を中心にエンジニアリング・建設・運営・メンテナンスを一貫して提供しています。さらに、急速に需要が拡大している海外市場では圧倒的なシェアを有し、衛生的なごみ処理とクリーンエネルギーの供給において世界レベルで貢献しています。



Warsan Waste Management Centre (ドバイ)

バイオガスプラント納入実績

世界 **トップクラス**

世界 **21** カ国・地域に展開

国内 **20** 施設

海外 **436** 施設

(ライセンサーによるものを含む)

当社グループは、欧州でトップクラスの実績を誇るKompostogasやSchmackのバイオガス技術を有し、環境意識が高まっている米国やアジア諸国へも事業を拡大しています。

乾式、湿式の両バイオガス技術に加え、バイオメタン精製技術まで広範な技術を自社グループで有しています。



Jönköping Biogas (スウェーデン)

ごみ処理プラント運営施設数

国内 **49** 施設

海外 **3** 施設

ごみ処理プラントの運営・メンテナンスを通じて、地域社会に貢献しています。また、先進的なAI技術を活用して、省人化・省力化された施設の遠隔支援と自動運転状況の監視を行っています。



A.I/TEC

海外廃棄物処理事業の自社運営・事業参画

ごみ焼却発電事業への資本参加

～ドバイ、アブダビなど

従来、海外ではEPC(設計・調達・建設)を中心に事業を展開していましたが、近年ではごみ焼却発電事業への資本参加や、バイオガス事業の自社所有・事業運営に積極的に進出しています。

バイオガス事業の自社運営

～英国、米国、スウェーデンなど

これにより、持続可能な事業基盤の構築を図りながら、グローバルな資源循環型社会の実現に貢献していきます。

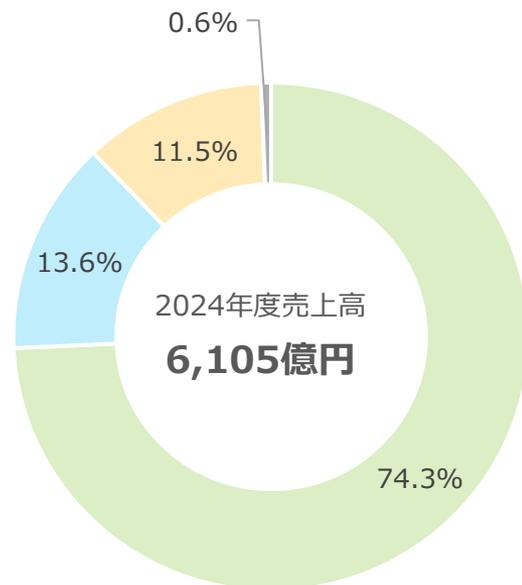
戦略的M&A

中期経営計画「Forward 25」期間

における海外企業買収 **8** 社

海外事業の伸長、継続的事业(完工後の長期運営・保守サービスなど)の伸長に向けて、積極的に海外でのM&Aを実施しています。

事業構成と主な製品群



- 環境事業
- 機械事業・社会インフラ事業
- 脱炭素化事業
- その他

環境事業



ごみ焼却発電施設



バイオガス施設



汚泥再生処理施設



鉱山向け水処理施設

機械事業



真空バルブ



精密機械

社会インフラ事業



橋梁



水門

脱炭素化事業



船用エンジン



プロセス機器



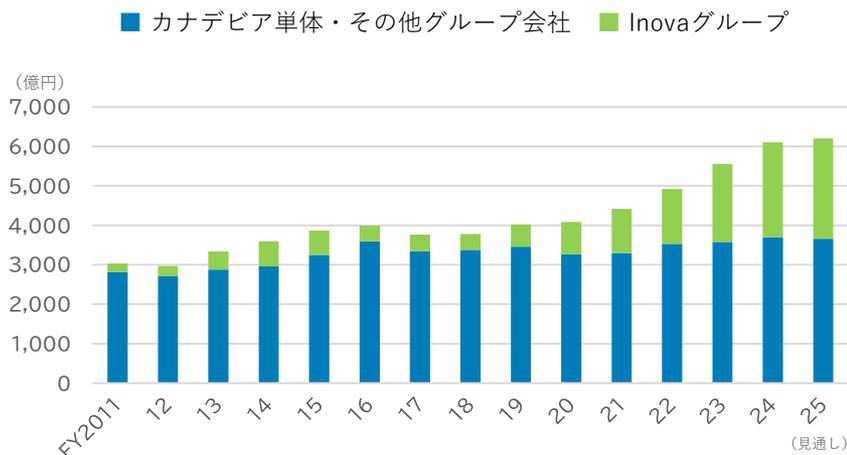
脱炭素化システム



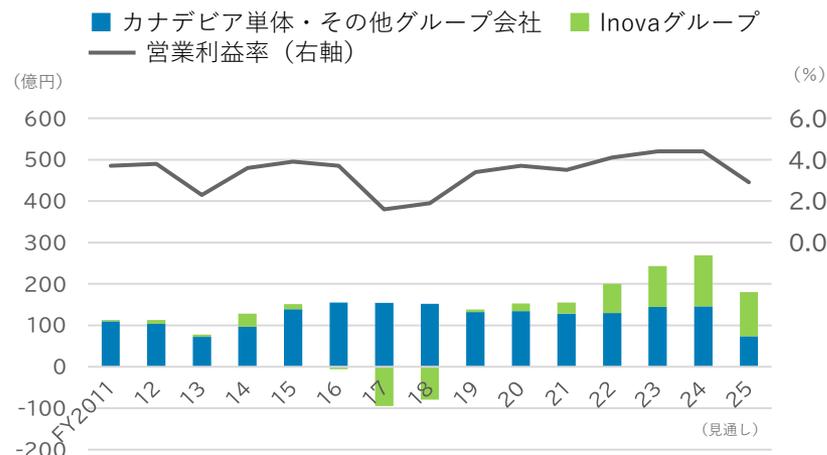
風力発電

当社グループの連結売上高・営業利益の推移

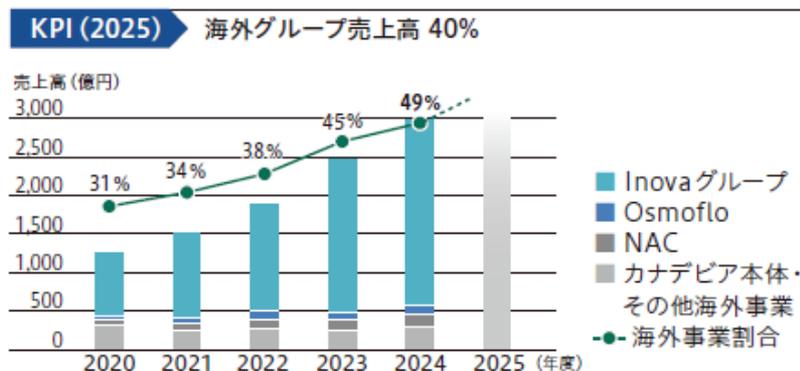
売上高



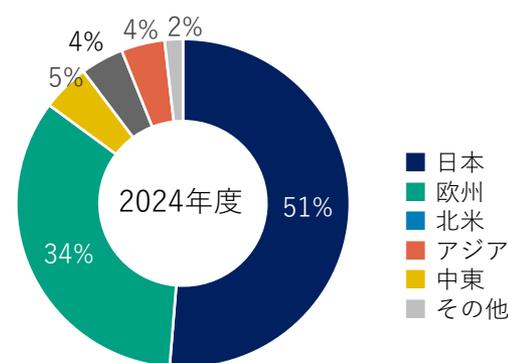
営業利益・営業利益率



海外事業売上高



地域別売上高構成比



主な納入実績(2025年3月末時点 累計納入実績)

■ 環境事業 ■ 脱炭素化事業

欧州

- ごみ焼却施設 521件
- バイオガス施設 428件

北米

- ごみ焼却施設 101件
- バイオガス施設 3件
- 原子力関連設備(キャスク、キャニスタ) 937基

中東

- ごみ焼却施設 5件
- バイオガス施設 2件
- 水処理施設 30件
- プロセス機器 506基

日本

- ごみ焼却施設 543件
- 水処理施設 25件

アジア

- ごみ焼却施設 342件
- バイオガス施設 3件
- 水処理施設 8件
- 船用エンジン 307基
- プロセス機器 500基

アフリカ

- ごみ焼却施設 3件
- 水処理施設 3件

南米

- ごみ焼却施設 1件
- 水処理施設 8件

豪州

- ごみ焼却施設 4件
- 水処理施設 278件

ごみ焼却発電施設では、世界のリーディングカンパニー
ごみ処理施設納入実績(1,520)の約半数が焼却発電

ビジョン・経営方針

2050年にめざす姿

- ① 環境負荷をゼロにする
- ② 人々の幸福を最大化する

7つの成功の柱(マテリアリティ)

- カーボンニュートラル
- 資源の完全循環
- 環境復元力の最大化
- 災害激甚化の対応
- サステナブル調達
- 人々の幸福の最大化
- コーポレート・ガバナンスの高度化

経営方針

2050年にめざす姿

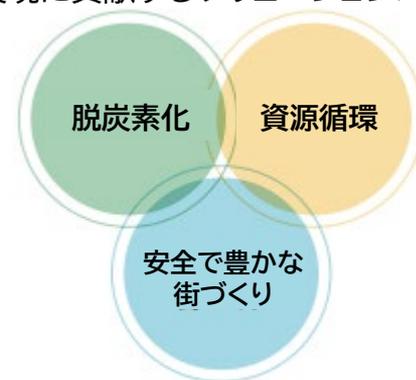
サステナブルビジョン

- ①環境負荷をゼロにする
- ②人々の幸福を最大化する

7つの成功の柱
(マテリアリティ)
を念頭に置き、
事業分野を見直す

当社グループの事業分野

サステナブルで、安全・安心な
社会の実現に貢献するソリューションパートナー

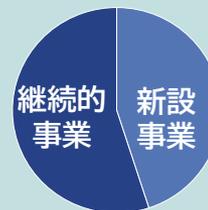


2022年度
営業利益率 4.1%



2030年度に営業利益率10%をめざす

2030年度
営業利益率 10%



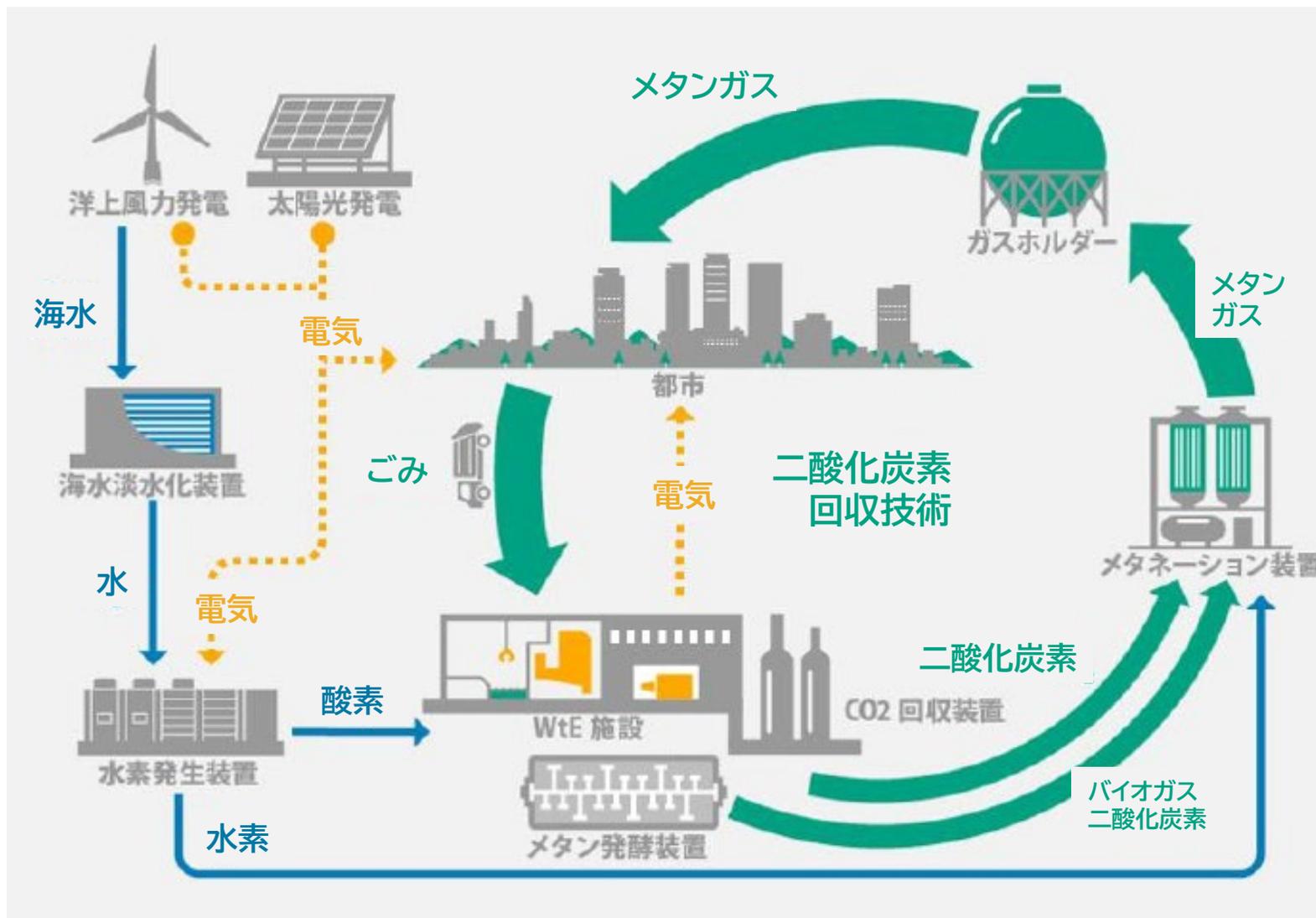
継続的事业の拡大

海外売上高・利益の拡大

脱炭素化、資源循環、安全で豊かな街づくりの分野で事業創出・拡大

成長事業

脱炭素社会・資源循環に向けたカナデビアの技術



環境事業（ごみ焼却発電事業(Waste to Energy)）

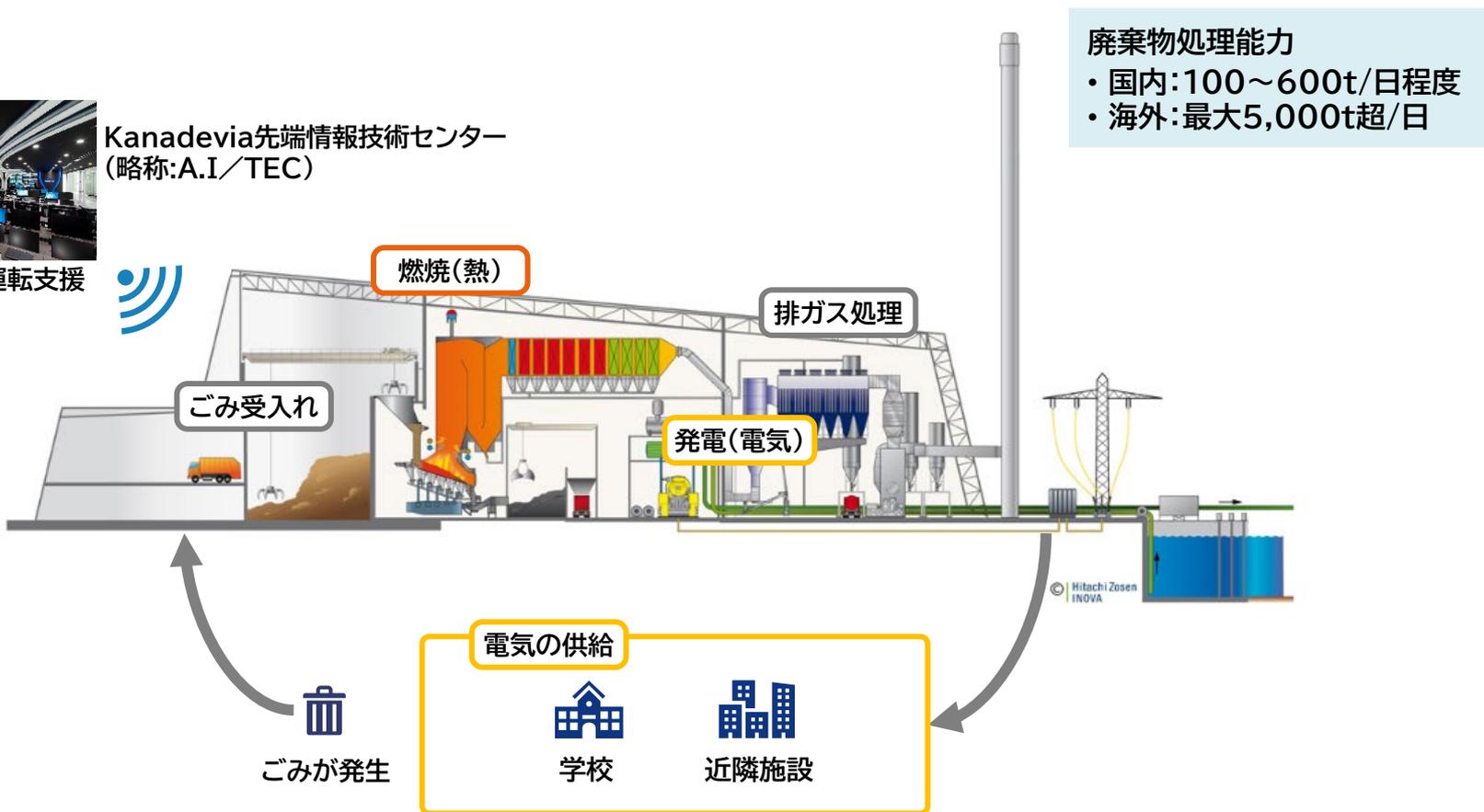
提供する社会価値

- 一般廃棄物の効率的かつ衛生的な処理
- クリーンエネルギーの創出・廃棄物からの資源回収
- エネルギーの地産地消



遠隔監視・運転支援

Kanadevia先端情報技術センター
(略称:A.I./TEC)



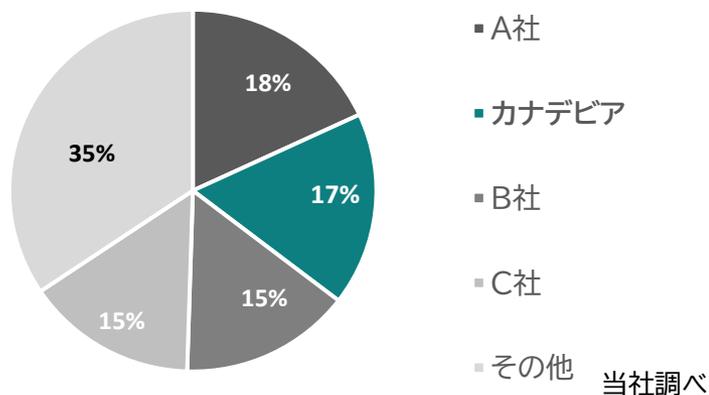
環境事業(国内の市場環境)

当社の強み

- コア技術を保有し、事業開発、設計、建設、O&M、事業運営が可能
- 世界トップクラスの納入実績(ライセンシーを含む) 1,520施設
- 廃棄物という特殊燃料燃焼に関する実績に裏付けられたノウハウ、メンテナンスサービス事業の基盤

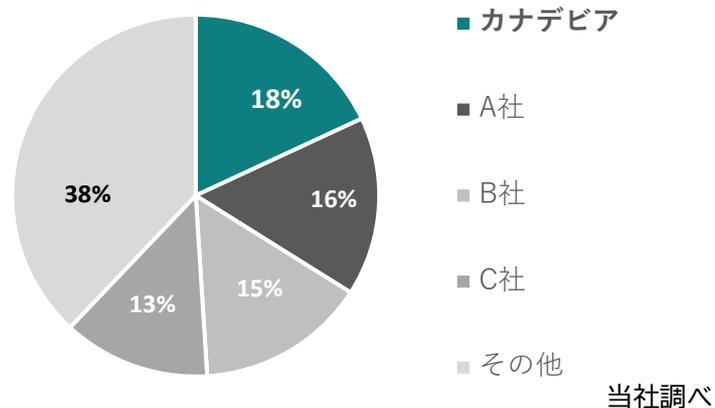
【EPC】

2020-2024 年度 EPCシェア (トンベース) :



【継続的事業】

2020-2024年度運営件数シェア :

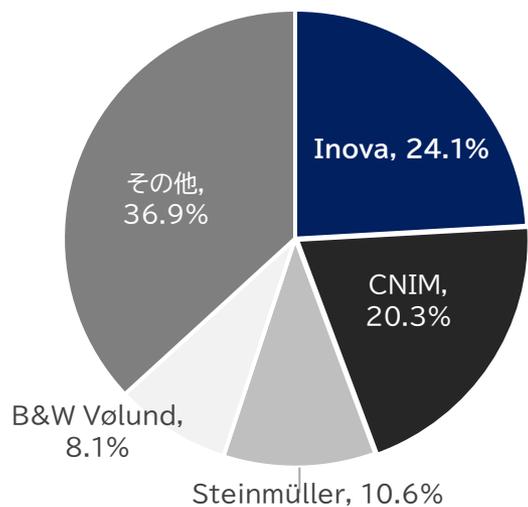


環境事業(海外の市場環境)

EMEAにおけるシェアの拡大

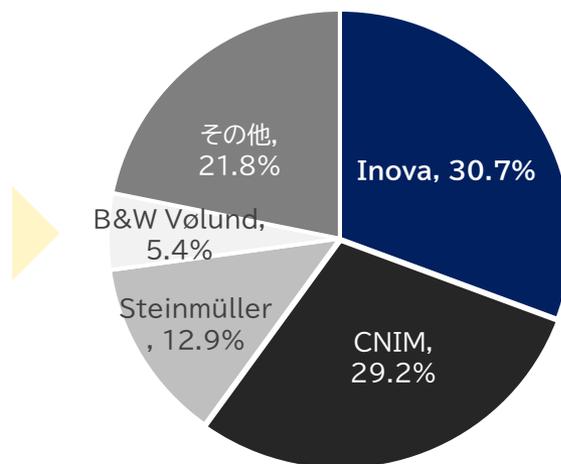
2010年-2014年累計

Total: 47,384 tpd



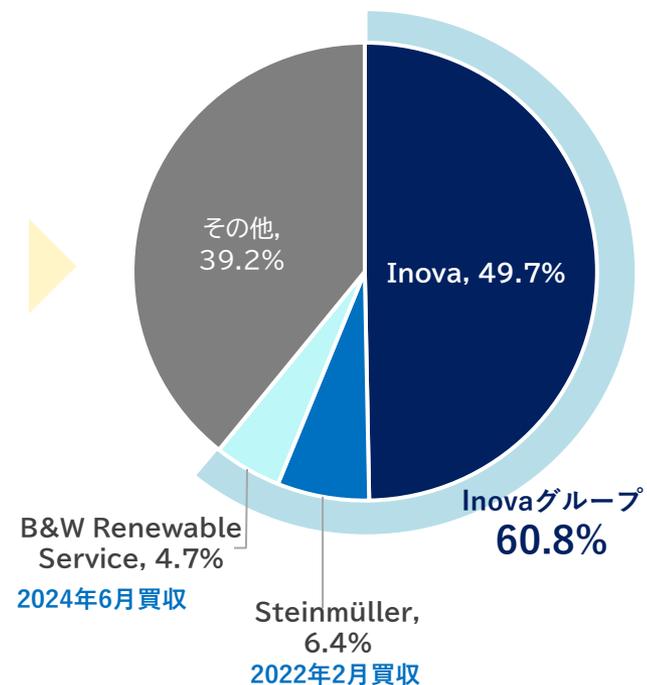
2015年-2019年累計

Total: 36,680 tpd



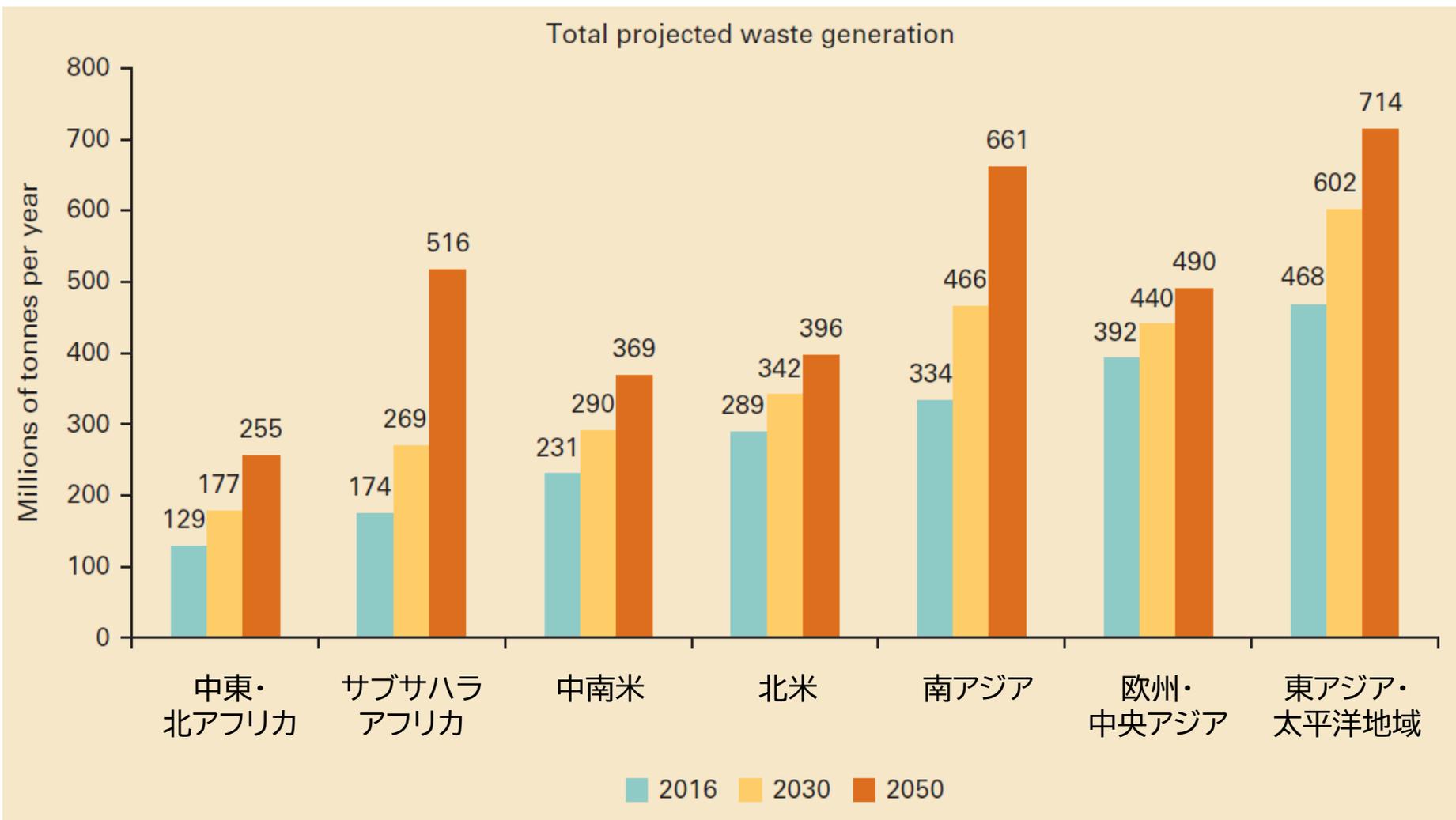
2020年-2024年累計

Total: 62,437 tpd



出所：A.Vaccani&Partnersレポート(2019) および Rhincodon Corporationレポート(2025)より当社作成

世界の廃棄物発生量の予測



出典:世界銀行 What a Waste 2.0

世界最大級のWtEプラント:ドバイ(UAE)



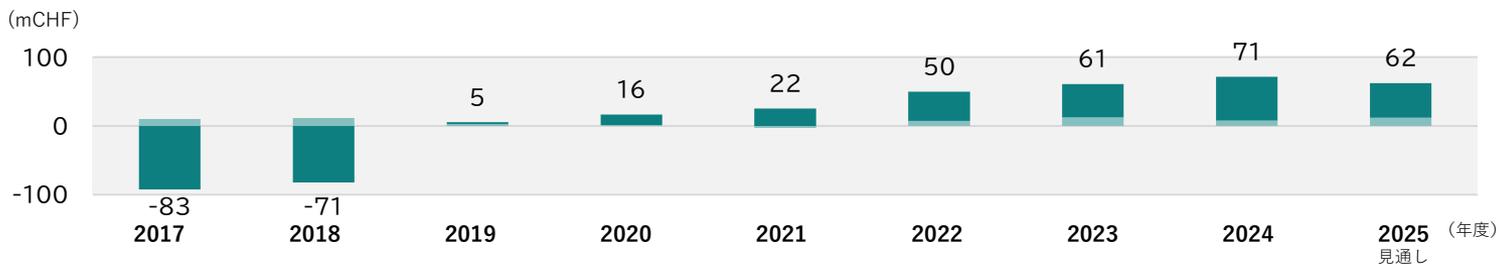
建設地	ドバイ首長国 ワルサン地区
発注者	Dubai Waste Management Company P.S.C.
所掌	EP+SV+O&M(35年間)
工期	2021年4月～2024年8月
炉形式	ストーカ炉
処理能力	5,000t/日 以上(5炉)
発電能力	約200MW

海外事業の拡大 (Kanadevia Inova)

Inovaグループ 業績推移



営業利益 (mCHF)



赤字からのリカバリー、ターンアラウンド

WtEの新市場への進出、シェアの拡大

バイオガス事業およびO&M事業拡大に向けた戦略的M&A

(注記) 上図は参考図。各年度の数値は、当該年度の換算レートを用いて算出した参考値。

海外事業の拡大(Kanadevia Inova)

拠点の広がり (欧州・米国)

Encyclis Ireland Operations (英)

- ダブリン WtEプラント運営会社
- ※2026年2月買収予定

Kanadevia Inova Steinmüller (独)

- (旧Steinmüller Babcock Environment)
- WtEプラントの設計・調達・建設・メンテナンス

Est Industries (仏)

- WtEプラントのボイラー部品の製造・販売・サービス

Kanadevia Inova Denmark (デンマーク)

- (旧B&W Renewable Service)
- WtEプラントなどのアフターサービス・メンテナンス

Timberforce (デンマーク)

- ボイラーおよびその関連機器の設計から販売、保守までの総合的なサービス提供

Kanadevia Inova Schmack (独)

- バイオガスプラントの設計、建設、保守、運営など

Kanadevia Inova (スイス)

Kanadevia Inova Matrix Services (米)

- (旧Matrix Power Services)
- WtEプラントのボイラー部品供給・据付・メンテナンス

Kanadevia Inova USA (米)

- 北米におけるコンポガスプラント事業

- : エンジニアリング、その他
- : サービス
- : リニューアブルガス

将来の成長事業：① 脱炭素化システム

水素製造装置

スタック量産による水素製造装置の競争力強化・供給体制構築

国内最大規模グリーン水素製造の実証(GI基金事業 2021～)

2025年:サントリー南アルプス白州工場(山梨県北杜市)での実証試験装置(6MW)の稼働開始

量産工場の建設(GXサプライチェーン構築支援事業)

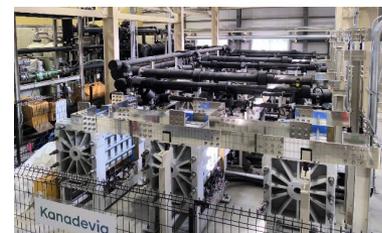
2025年:水電解スタックの量産工場建設に関する立地協定締結(山梨県都留市)

2029年:量産工場の稼働開始(製造規模:1GW/年)

水素関連分野における投資

2025年:水素ファンド(Japan Hydrogen Fund L.P)への出資を機関決定

⇒ 量産化によりグローバルな事業展開を図る



GI基金事業の6MW水素製造装置

メタネーション

Inovaとの連携を通じた大型システムの開発並びに海外市場への展開

オマーンLNG社向け案件の推進

2024年:オマーンでのメタネーション実証に関する覚書締結

2025年:商業プラントのConcept Study及びパイロットプラントのPre-FEED契約締結(経産省補助金を活用)

⇒ 商業メタネーションプラントの実現へ



メタネーション反応器 イメージ
(Kanadevia Inova, Pythia 6000)

将来の成長事業：② 風力発電

洋上風力発電

着床式・浮体式の双方で基礎製造事業を推進

着床式：サクシオンバケット基礎

2021年：モノバケット実証試験

2022年：マルチバケット実証試験

⇒ 日本海事協会(NK)による認証取得後、上市予定

浮体式：セミサブマーシブル型基礎

2024年～：愛知県沖浮体式洋上風力実証事業(GI基金フェーズ2)

2025年：浮体式の商用化に向け、大成建設・商船三井と覚書締結

⇒ 浮体式基礎の量産化・低コスト化へ



洋上風車
(イメージ)



セミサブマーシブル型基礎

陸上風力発電

大型風力発電ファームの稼働・運営

むつ小川原風力発電事業(青森県六ヶ所村)

2025年：むつ小川原風力発電設備の風車(15基)据付完了、試運転中

2026年：2月に完工予定

⇒ 20年にわたる運転管理・メンテナンス業務



むつ小川原陸上風力発電設備

株式情報・株主還元

株主還元

当社は、長期的な株主価値の向上のために、成長投資、研究開発・設備投資等を通じた経営基盤と財務基盤の強化に取り組み、継続的かつ安定的な配当を実施することを株主還元の基本方針としています。

	1株当たり 当期純利益	1株当たり 配当	配当性向
2023年度	112.74円	23.00円	20.4%
2024年度	131.33円	25.00円（期初予想23円）	19.0%
2025年度（中間期予想）	59.46円	25.00円	42.0%

株価

過去3年間の騰落率（基準日:2023年1月23日）



株価	1,038円 (26年1月23日終値)
PBR	0.98倍(26年1月23日)
PER	17.46倍(26年1月23日)
ROE	5.2% (26年3月期見通し)

株主情報

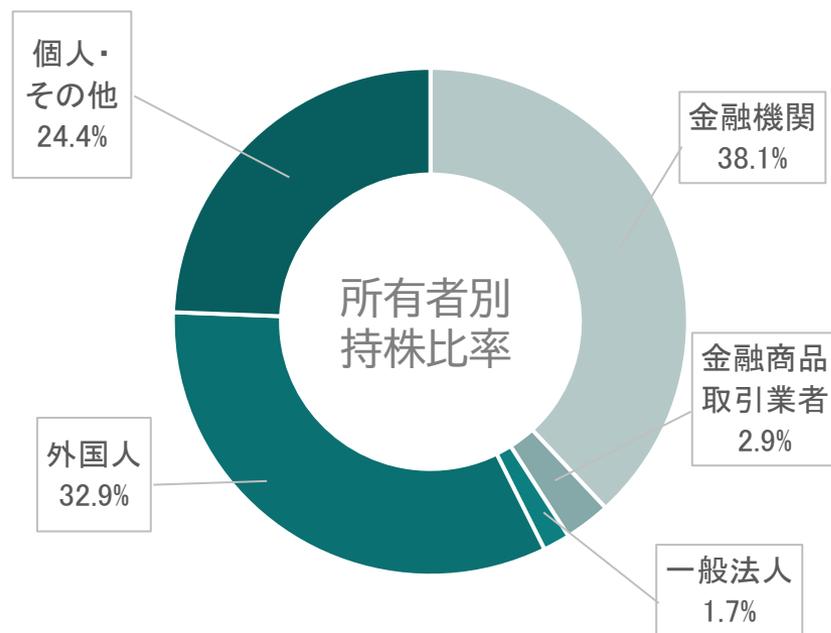
株式の概要

2025年3月31日現在

証券コード	7004(機械)「日経225」構成銘柄
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場
単元株式数	100株
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日
発行済み株式総数	170,214,843株 (うち自己株式 1,696,833株)
株主数	71,583名
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日

株式分布

2025年3月31日現在



その他資料

トピックス

大阪・関西万博 日本館バイオガス発電プラント

2025年4月13日から10月13日までの184日間、大阪市此花区夢洲で開催された大阪・関西万博の日本館にて、バイオガス発電プラントを設計施工

- ・ 期間中、会場内で出た生ごみからメタンガスを生成
- ・ 生成したガスで発電し、日本館の電力の一部として活用
- ・ 発酵液は水処理され水盤などで再利用
- ・ バイオガスプラントの見学会にも協賛

⇒ 資源循環型社会への提案、当社事業や技術も存分にアピール



日本館バイオガス発電プラント

COP30への参加(2025年11月10日～11月22日 ブラジル/ベレン)

- ・ 2年連続で「ジャパン・パビリオン」にて、廃棄物処理分野における脱炭素技術を中心としたソリューションを提示する展示を実施
- ・ 環境省主催のセミナーにて社長の桑原が登壇
- ・ 100以上の国・地域から各国閣僚など要人も含め750名以上の来場者を集客



インド-大阪市によるカーボンニュートラルへの取り組みについて講演

トピックス

英国初となるごみ焼却発電プラントでのCO2回収施設を受注

発注者： Encyclis (英国)
建設地： 英国イングランド・チェシャー州
施設能力： CO₂回収量 37 万トン/年
完成時期： 2029 年 (予定)

- 英国初の商業用CO₂回収機能付き廃棄物発電施設。
- 英国・エネルギー安全保障・ネットゼロ省が支援する低炭素エネルギープロジェクト「HyNet North West」の一つとして実施。

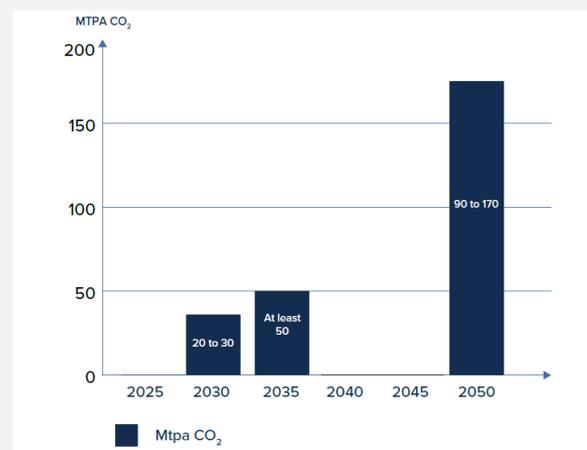


完成イメージ

英国のCCUS (Carbon Capture, Usage and Storage) 政策

- 英国政府はCCUSを産業・エネルギー炭素排出削減の中核技術と位置づけ、Net Zero戦略の柱の一つとして推進。
- 2030年までに年間2,000万~3,000万トンのCO₂回収をめざし、地域型CCUSクラスタープロジェクトを選定・支援 (HyNet North Westはその一つ)。
- CCUS政策の中でUK ETS (排出量取引制度) の対象拡大も進められ、2028年にはごみ焼却発電も対象に追加される予定。

出所：英国政府 (2023) 「Carbon Capture, Usage and Storage: A Vision to Establish a Competitive Market」
<https://www.gov.uk/government/publications/carbon-capture-usage-and-storage-a-vision-to-establish-a-competitive-market>



英国政府のCCUS導入目標

(ご参考)リンク集

- カナデビアグループ 統合報告書2025
[https://www.kanadevia.com/ir/data/pdf/kanadevia integrated report 2025 J.pdf](https://www.kanadevia.com/ir/data/pdf/kanadevia%20integrated%20report%202025%20J.pdf)
- TCFD・TNFD統合レポート2025
[https://www.kanadevia.com/ir/data/pdf/tcfdtnfd2025 J.pdf](https://www.kanadevia.com/ir/data/pdf/tcfdtnfd2025%20J.pdf)
- YouTube Kanadevia Group Channel
<https://www.youtube.com/@KanadeviaGroupChannel/featured>



カナデビアグループ 統合報告書2025



TCFD・TNFD統合レポート2025

Kanadevia

Technology for people and planet

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。